

## 2. 火山の概況 (平成 15 年 1 月 2 日 ~ 平成 15 年 1 月 8 日)

三宅島では噴煙活動が継続した。阿蘇山では孤立型微動が多い状態であった。桜島、諏訪之瀬島では噴火があった。



### 注 1 記号の意味

- ：噴火した火山
- ：観測データ等に変化があった火山
- ：前期間までに掲載した火山の、その後の状況等

注 2 本文の火山名の後ろの[]内の[噴煙・噴気・地震・微動・空振・地殻変動・熱・火山ガス等]は、変化があった観測データ等を示す。

### 雌阿寒岳

前期間の 1 日に規模の小さい微動が発生した後、体に感じない微小な地震がやや増加した。今期間の地震回数は、1 日当たり 3 ~ 40 回で、合計は 123 回であった (前期間 35 回)。

今期間は微動は発生しなかった。

ポンマチネシリ 96-1 火口の噴煙の高さは 100 ~ 200m で推移しており、これらの微動及び地震活動に関係して特に変化はなかった。

### 箱根山

前期間の 12 月 30 日に駒ヶ岳の南西約 2 km を震源とする M(マグニチュード)3.1 の地震が発生した。その後発生している体に感じない微小な余震は、今期間は 1 日当たり 0 ~ 2 回に減少した。

### 三宅島 [地震・噴煙]

振幅の小さいやや低周波地震が、4 日 11 時台及び 6 日 13 時台にそれぞれ 1 時間当たり 6 回発生するなど、一時的に増加したが、総じて地震及び微動の活動は低調であった。

白色噴煙は連続的に噴出しており、最高は火口縁上 700m (8 日) であった (前期間 800m)。

GPS 観測では、三宅島の収縮を示す地殻変動は鈍化し、ほとんど停滞している。

### 阿蘇山 [微動]

孤立型微動が、1 日当たり 166 ~ 430 回発生し、期間中の合計は 1,860 回 (前期間 1,457 回) と、引き続き多い状態が継続した (図 2)。

地震の回数は少ない状態が続き、1 日当たり 0 ~ 12 回で、合計は 28 回であった (前期間 34 回)。

白色噴煙は連続的に噴出しており、最高は火口縁上 500m (2 日) であった (前期間 400m)。

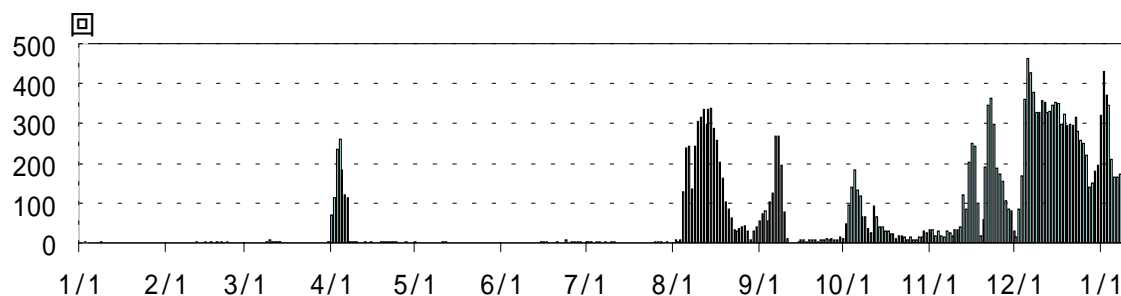


図2 阿蘇山 孤立型微動日別回数  
(2002年1月1日~2003年1月8日)

**桜島 [爆発・空振・噴石・噴煙]**

5日に爆発的噴火(以下、爆発)が1回発生した(前期間1回)。これに伴い、鹿児島地方気象台(南岳の西南西約11km)では弱い体感空振が観測され、少量の噴石が9合目まで飛散するのが確認された。噴石の確認は昨年4月8日の爆発以来である。

噴煙高度の最高は火口縁上900m(5日)であった(前期間800m)。

鹿児島地方気象台では降灰は観測されなかった(前期間もなし)。

**諏訪之瀬島 [爆発・微動]**

4日に爆発が4回発生した(前期間2回)。

十島村役場諏訪之瀬島出張所によると、島内の集落(御岳の南南西約4km)では、4~6日に鳴動が聞こえた。降灰は確認されなかった。

12月18日00時05分から発生していた連続微動は、1月8日13時22分まで継続した\*。

\*12月24日00時~27日11時は地震観測データ欠測により不明。

**表 火山情報発表状況**

火山名	火山情報名	発表日時	概要
三宅島	火山観測情報第2号 (1日1回発表)	2日 16:30	活動経過ほか(噴煙・地震・微動・空振・火山ガス・地殻変動の状況、上空からの観測結果、及び上空の風・火山ガスの移動予想)
	火山観測情報第5号	5日 16:30	
	火山観測情報第6号 (1日2回発表)	6日 09:30	
	火山観測情報第11号	8日 16:30	
阿蘇山	火山観測情報第1号	6日 11:00	孤立型微動の多い状態が継続、噴煙活動・湯だまりの状態に大きな変化なし